

令和7年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

美術科 1年生

1 日常の学習状況について

授業規律がしっかりしている生徒が多い。準備や片付けもほとんどの生徒がきちんと行っている。作品制作では、豊かな発想で集中して取り組めているが、技能面で表現することに自信がない生徒が多い。

2 学力調査等（定期考査）の結果の観点別分析

定期考査において、思考・判断・表現の観点では、事前に実技問題の内容を周知したことで、生徒自ら対策し、問題に取り組むことができた。時間配分も意識することができた。知識の観点では、授業プリントの内容が出題範囲であったが、知識の定着に差が見られた。

3 教科の指導上の課題（授業評価アンケートより） ◎そう思う ○ややそう思う

- | | |
|----------------------------------|---------------------------|
| ①授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。 | (◎75.7% ○22.6%) ◎+○=98.3% |
| ②授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。 | (◎73.6% ○23.8%) ◎+○=97.4% |
| ③授業内容や指示・説明が分かりやすい。 | (◎67.4% ○29.1%) ◎+○=96.5% |
| ④意欲的に取り組めるような授業になっている。 | (◎67.8% ○29.1%) ◎+○=96.9% |
| ⑤板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる。 | (◎57.4% ○34.8%) ◎+○=92.2% |

⑤の結果から、ICT 機器を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことがわかる。また、④の結果から、意欲的に取り組めていない生徒がおり、美術に対する苦手意識があると考えられる。

4 授業改善について

- ・定期考査に向け、授業で用語だけ教えるのではなく、「どういう意味があるのか」「なぜそうなるのか」を説明する。一度だけでなく振り返り等行うことで、知識の定着をはかる。
- ・本番の制作に入る前に基本的な技能を練習し、難しいところは個別に支援するなどして不安を取り除く。
- ・生徒が持っているタブレットを活用し、黒板に貼る掲示物だけでなく、作品見本を手元で各自のペースで鑑賞させるなど、ICT 機器により理解を深める。
- ・美術という教科が特別なものではなく、日常生活に関連があるということに気づかせ、意欲的に制作に取り組ませる。そのために、課題設定を工夫したり、導入部分で日常生活とのつながりにふれたりする。

5 成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」「作品の評価」「振り返りシート」により確認する。

令和7年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

美術科 2年生

1 日常の学習状況について

授業への取り組みは、多くの生徒が意欲的に行うことが出来る。発想や構想を膨らますことが出来ずに表現活動に結びつかない生徒も見られる。

2 学力調査等（定期考査）の結果の観点別分析

定期考査において、思考・判断・表現の観点では、作品制作課題と同じ実技問題を提示したので概ねよく取り組めていた。知識の観点では、授業プリントの内容が出題範囲であったが、知識の定着に差が見られた。一問の配点が高く、問題数が少なかったことが反省点としてあげられる。

3 教科の指導上の課題（授業評価アンケートより） ◎そう思う ○ややそう思う

- | | |
|----------------------------------|---------------------|
| ①授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。 | (◎43% ○32%) ◎+○=75% |
| ②授業のねらいや流れがはっきりして見通しがもてる。 | (◎38% ○38%) ◎+○=76% |
| ③授業内容や指示・説明が分かりやすい。 | (◎36% ○36%) ◎+○=72% |
| ④意欲的に取り組めるような授業になっている。 | (◎42% ○38%) ◎+○=80% |
| ⑤板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる。 | (◎32% ○32%) ◎+○=64% |

⑤の結果から、ICT 機器を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことがわかる。また、③の結果から、授業内容や指示・説明が分かりやすすくないという生徒が一定数おり、説明の具体化が必要となっている。

4 授業改善について

- ・定期考査に向け、一度だけでなく授業の中で復習することで、美術に関する知識の定着を図る。
- ・発想や構想につながるように、作品制作に役立つ鑑賞を取り入れる。
- ・授業規律を守り、生徒間で発見や意見を出しやすい雰囲気を作り全員で課題を共有するようにして理解を深める。
- ・生徒が持っているタブレットを活用し、黒板に貼る掲示物だけでなく、作品見本を手元で各自のペースで鑑賞させるなど、ICT 機器により理解を深める。
- ・単元の目標を明確にして、技法や制作手順などのプリントを配布し指示や説明が視覚的に分かるようにする。

5 成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」「作品の評価」「振り返りシート」により確認する。

令和7年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

美術科 3年生

1 日常の学習状況について

授業規律がしっかりしている生徒が多い。準備や片付けもほとんどの生徒がきちんと行っている。作品制作では、意欲的ではあるが、発想や構想をふくらませることができず、表現活動になかなか結び付かない生徒もいる。

2 学力調査等（定期考査）の結果の観点別分析

定期考査において、思考・判断・表現の観点では、事前に実技問題の内容を周知したことで、生徒自ら対策し、問題に取り組むことができた。時間配分も意識することができた。知識の観点では、授業プリントの内容が出題範囲であったが、知識の定着に差が見られた。

3 教科の指導上の課題（授業評価アンケートより） ◎そう思う ○ややそう思う

- | | |
|----------------------------------|---------------------------|
| ①授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。 | (◎69.3% ○24.8%) ◎+○=94.1% |
| ②授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。 | (◎67.0% ○24.8%) ◎+○=91.8% |
| ③授業内容や指示・説明が分かりやすい。 | (◎59.8% ○30.6%) ◎+○=90.4% |
| ④意欲的に取り組めるような授業になっている。 | (◎61.9% ○32.1%) ◎+○=94.0% |
| ⑤板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる。 | (◎56.6% ○28.8%) ◎+○=85.4% |

⑤の結果から、ICT 機器を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことがわかる。また、③の結果から、授業の内容に不安を感じている生徒がおり、指示や説明を分かりやすくするための工夫が必要だと考えられる。

4 授業改善について

- ・定期考査に向け、授業で用語だけ教えるのではなく、「どういう意味があるのか」「なぜそうなるのか」を説明する。一度だけでなく振り返り等行うことで、知識の定着をはかる。
- ・言葉だけでなく、板書や学習プリントを活用した分かりやすい説明を行う。つまづいたところを質問しやすい雰囲気をつくったり、机間支援したりする。
- ・作品制作の不安を取り除くために、本番の制作に入る前に基本的な技能を練習し、難しいところは個別に支援する。また、アイデアスケッチを確認し、個々にアドバイスする。
- ・豊かな発想に向け、お互いの作品を鑑賞する時間や実物投影機で紹介する時間を取ることで、アイデアには様々なアプローチがあることを実感させる。
- ・生徒が持っているタブレットを活用し、黒板に貼る掲示物だけでなく、作品見本を手元で各自のペースで鑑賞させるなど、ICT 機器により理解を深める。

5 成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」「作品の評価」「名札や相互評価カードなどのプリント」により確認する。